

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
北海道新幹線建設局入札監視委員会（第24回定例会議）審議概要

開催日及び場所		令和8年7月23日（木） 北海道新幹線建設局会議室	
委員		原 琢磨（弁護士） 鈴木 雄（大学院准教授） 清平 秀幸（公認会計士）	
審議対象期間		令和7年10月1日～令和8年3月31日	
工事	抽出案件	件数 2件	(備考)
	一般競争入札方式 (政府調達協定適用対象)	北海道新幹線、倶知安軌道敷設	
	一般競争入札方式 (政府調達協定適用対象以外)	北海道新幹線、長万部第三寮外1箇所新築	
役務	抽出案件	件数 1件	
	公募型 プロポーザル方式	北海道新幹線、自然由来重金属等の対応方針検討 R7	
物品等	抽出案件	件数 1件	
	一般競争入札方式	事務用物品（書庫他）の購入	
高落札率契約	抽出案件	件数 1件	
	一般競争入札方式 (政府調達協定適用対象)	北海道新幹線、長万部軌道敷設	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等		意見・質問	回答
		別紙のとおり	
委員会による意見の具申 又は勧告の内容		なし	

別紙（工事）

	意見・質問	回答
1	一般競争入札方式（政府調達協定適用対象） 「北海道新幹線、倶知安軌道敷設」 ① 技術力等を評価する評価点の内訳に関して、本案件の落札者の評価値は、他の軌道敷設の案件の応札者と比べて点数的にどうか。入札者2者のうち残りの1者が予定価格超過となっており、評価点加算の対象外となっているため、低い点数であっても落札できてしまう。施工上、技術的な問題が生じないかと懸念する。 ② 既発注の軌道敷設工事5件のうち4件で2者の応札となっており、落札者とならなかった者は入札辞退や予定価格超過となっているケースが多い。また、予定価格を超過し落札者とならなかった者の方が、落札者と比較して評価が高い傾向にある。今年5月に談合疑義事案が発生して以降の分析において、不自然な点は何かあったか。 ③ 参加者を増やすための対策は検討しているか。 ④ 工期について、令和15年までと長期にわたるが、理由は何か。 また、工期が長期であることに関連して、資材高騰や人件費の高騰に対する対策は何かあるのか。 ⑤ 入札公告に記載の本工事の施工区間と比較し、技術的所見で求めている各参加者の取り組みの対象となっている区間	① 前提として、参加資格を確認する段階で資格があると認められれば、その者は本工事の履行能力を十分に有していると考えている。加算点についてはあくまでも落札者を決めるうえでの項目のひとつであり、加算点がたとえ0点であったとしても、履行上、問題はないものと考えている。なお、本工事の落札者については、他の軌道敷設工事の落札者と比べて評価点に大きな差はない。 ② 事後的に状況を分析したが、入札者が本命ではない工区の入札に参加するようなことも想定できるため、予定価格の超過という事柄だけをもって、ただちに不自然と判断するのは困難と考えている。談合の有無の判断については、公正取引委員会の調査結果によるものと考えているが、どのようなケースを談合と疑うべきかについては、今後検討してまいりたい。 ③ 参加者数を増やすための対策として、今後の発注方法を検討する必要があると考えている。 ④ 20km以上に及ぶ長距離の施工であること、また、北海道特有の気候により冬期の施工が困難であることを理由に、8年程度の工期となっている。資材等の物価が高騰した場合には、工事請負契約書第26条において請負代金額の変更（物価スライド）を行うことができるとしており、この条項をもって対応する。 ⑤ 軌道基地やトンネル区間・明かり区間（高架橋など、トンネル以外の周囲が開けた区間）の位置の関係で、これらが含まれる区間に限

	が異なっているのはなぜか。	っての取り組みを評価したいという意図がある。
2	一般競争入札方式（政府調達協定適用対象以外） 「北海道新幹線、長万部第三寮外 1 箇所新築」 ① 工事内容を勘案すると、応札者が 2 者なのは少なく感じるが、理由は何か。 ② 既発注案件も含めて応札者数が 2～3 者程度と少ないが、参加者を増やすために何か対策は行ったのか。 ③ 本案件は設計・施工を一体として発注しているのか、あるいは設計と施工を分けて発注しているのか。 ④ 本案件において、長万部第三寮棟及び食堂棟と八雲寮棟を一括発注にした理由は。	① 参加資格を有する者は多く存在するが、本工事がプレハブ工法（柱や梁などをあらかじめ工場で生産・加工し、現場で組み立てる工法）の工事であることから、ゼネコン各社が参加を見送ったものと推測する。過去の新築工事も 2～3 者程度の応札であり、今回が特段少ないわけではない。なお、本案件の落札者は、令和 7 年度より新規に入札に参入した者である。 ② かつては競争参加資格を建築工事の「A 等級」のみを参加要件としていたが、令和 5 年度発注の工事より「A 等級又は B 等級」に要件を緩和している。また、令和 6 年度より、参考見積を依頼する会社の数を増やすなど、参加が増えるよう対策を行っている。 ③ 基本設計は機構で行い、施工を行う受注者が使用する資材の仕様・規格に合わせて実施設計の上、施工する。 ④ 施工場所の長万部町と八雲町は隣接しており、距離にして 30km 程度と比較的近隣であるため、一括発注の方が受発注者双方のコスト削減につながると判断した。

別紙（役務）

	意見・質問	回答
1	公募型プロポーザル方式 「北海道新幹線、自然由来重金属等の対応方針検討 R7」	

① プロポーザル方式に係る技術者ヒアリングにおいて、評価者によって点数に1～2点程度の差があるようだが、その点差は特に問題はないのか。	① 評価者によって、評価得点の傾向が同じか、特定の者に極端な偏りがないかの確認をしている。本案件では特段問題はないと判断している。
② 応札可能者数は何社程度いるのか。	② 一般的な土木コンサルタント業務を行う者であれば履行可能なため、相当数いるものと認識している。
③ 過去に契約した「自然由来重金属等の対応方針検討」業務でも、本案件の受注者が受注し続けている状況が続く原因は何か。	③ 本役務は北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）全体を対象としており、他機関が発注する重金属関連の業務とは規模が異なることから、新規の者が参加を見送っているのではないかと推測する。かつて本役務を発注した際に、設計図書を受領したが参加を見送った者にヒアリングを行った結果、「役務の規模が大きく、技術者の配置が難しい」という理由が挙げられた。

別紙（物品等）

	意見・質問	回答
1	一般競争入札方式（価格競争） 「事務用物品（書庫他）の購入」 ① 予定価格と入札価格の金額に近いのはなぜか。 ② 一般的な事務用物品の発注という本案件の内容を鑑みると、2者の応札は少なく思われるが、理由は。	① 数社から事前に参考見積を徴取し、参考見積をもとに予定価格を算出しているが、今回は参考見積を提出した者が金額をほぼ変えることなく入札にも参加したため、結果的に予定価格と入札価格に差が生まれにくい形となったと考えている。 ② 本案件では納入先が北斗市から札幌市と広範囲であったので、参加を見送った者がいたのではないかと想定している。また、次年度の人事異動に備えての発注であることと、経理手続きの都合により年度末に発注せざるをえないが、引越シーズンと重なることもあり、運搬業者の手配が難しく参加を見送った者がいる。

	③ 建設事務所ごとの発注など、納入先を分割して発注することはできなかったのか。 ④ 参考見積を徴取したのは何社か。また、応札した2者は参考見積を提出した者か。	たのではないかと想定している。 ③ 案件ごとの数量が少なくなっていまい、受注意欲が下がると考え、競争性の担保の観点から、現在の業務内容の分割は難しいと判断した。 ④ 参考見積を徴取したのは3者であり、そのうち2者が入札にも参加した。残りの1者が入札に参加しなかった理由は不明である。
--	---	--

別紙（高落札率契約）

	意見・質問	回答
1	一般競争入札方式(政府調達協定適用対象) 「北海道新幹線、長万部軌道敷設」 ① 入札参加者2者のうち1者の入札価格が予定価格を大幅に超過しているが、その理由は。 ② 先ほど審議した「北海道新幹線、倶知安軌道敷設」と同様に高落札率となった理由は何か。 ③ 「北海道新幹線、倶知安軌道敷設」と比較すると、工期が短い理由は何か。 ④ 本案件で2者のみの応札であった理由をどのように分析しているか。 ⑤ 99%という高落札率での落札となった要因はどのように考えているか。	① 予定価格を超過した者については、ここ数年は軌道敷設工事への参加実績が少なく、積算への理解度が低かったものと推測する。 ② 落札者は、北陸新幹線（金沢・敦賀間）以降に発注した軌道敷設工事で5件の応札があり、積算への理解度が高かったのではないかと推察する。なお、内訳についても、概ね機構の積算価格に近い価格であった。 ③ 当工区では起点方の半分がトンネル、終点方の半分が橋りょう・高架橋となっている点で倶知安軌道敷設と条件が異なることや、軌道敷設工事の着手可能時期を考慮して工期を設定しているため。 ④ 受注実績のある者が少ないことや、手持ち工事量の状況、または本州に本社や支店を置く企業にとって北海道という地理的な障壁等が原因になっているのではないかと推察している。 ⑤ 積算基準等を公表しており、予定価格に近い入札価格を算出することは可能であることに

		加え、北海道という地理的要因、過去の入札状況から、入札参加者が少なく競争性が低いと応札者が判断したためではないかと推察している。
--	--	--

別紙（その他）

	意見・質問	回答
1	工事、役務、物品等の全体審議 「低入札価格に関する調査報告書」 ① 対象期間の水文調査5件に関して、落札率が他の業種区分と比較して低く、いずれも落札者が低入札価格調査の対象になっている。また、「北海道新幹線、桁たわみ測定他」の3件について、いずれも同一の落札者であるが、落札率が60%程度と低い。機構の積算価格は実勢価格を踏まえていないのではないか。	① 水文調査案件に関しては、これまでも落札率が非常に低い案件が多く、入札監視委員会でもたびたび指摘を頂戴している。実勢価格と機構の積算価格が乖離しているのではないかという懸念について、積算担当部署に申し伝える。
2	高落札率契約の全体審議 なし	
3	一定規模以上の取引関係を有する法人との契約の全体審議 なし	
4	その他 なし	